

南三陸町総合戦略推進会議

平成30年度 南三陸町総合戦略推進会議（第2回）	
日 時	平成30年12月18日（火）18：00～20：15
場 所	南三陸町役場庁舎2階 会議室2-1、2-2
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度南三陸町総合戦略事業進捗状況について 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡等（次回日程、他） ・情報提供 復興庁インターン活動成果報告 5 閉会 <p><資料> 「平成30年度第2回南三陸町総合戦略推進会議 次第」 「南三陸町総合戦略施策一覧【平成30年度進捗状況】」</p>
出 席	<p>委員（敬称略）： <出席：11名> 最知明広（官）安藤仁美（住）、小山祥子（住）、中村未来（住）、渡辺公子（住）、伊藤孝浩（産）、小野寺邦夫（産）、佐藤太一（学）、重富裕昭（言）及川貢（労）高橋直哉（産）</p> <p><欠席：4名> 山内祐子（住）、及川美香（産）、佐藤克哉（産）、佐藤政彦（金）</p> <p>事務局：5名（及川課長、橋本調整監、山内室長、阿部主査、松本主事） 各担当課：農林水産課、</p>

< 1. 開会 >

< 2. 挨拶 > (会長)

おぼんでございます。12月もあと10日くらいというお忙しい時期に、第2回総合戦略推進会議にお集まりいただきましてありがとうございます。前回の会議録を確認しましたが、私の答弁する機会が多く、これではいけないということで、今回の会議の中では、今年度の進捗状況等について、是非多くの皆様にご意見をいただき、その中で議論を深めていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

< 3. 議事 >

(1) 平成30年度南三陸町総合戦略事業進捗状況について

会長： それでは協議に入る。(1) 南三陸町総合戦略平成30年度事業の進捗状況について、その中でもまずは基本目標1について説明をお願いします。

事務局より、基本目標1（私たちは地域の仕事（ちから）を輝かせます）に対するKPIの平成30年度事業内容及び実績について資料を基に説明を行い、また、具体的な取り組みについては各担当係より説明をいただくこととし、始めに農林業振興係より、第1次産業の就業支援実績について説明を行った。

会長： 事務局からの提案ですが、今回は各事業担当課にも参加していただいておりますが、すべての担当課より進捗状況について説明をいただくと、委員のみなさんとの意見交換の時間がなくなる。もうしわけないが、今から3分程度、資料に目を通していただき、その後に意見交換の時間をとりたいと思うがよろしいか？（一同同意）

それではそういった形で進めていきます。各担当課職員においては、質問があり次第、答弁をお願いしたい。（委員一同資料確認）

委員： 基本的な質問になりますが、「観光・体験・交流の促進」の観光入込客数データが平成30年1月から6月までのデータとなっているが、それ以降の進捗についてはどうなっているのか？

観光推進係： 観光入込客数については、観光庁が調査した統計を基に数値を出しておりますが、現段階では上期（1月から6月）下期（6月から12月）にわかれたデータとなっておりますので、今出すことのできるデータはどうしても上期分になってしまいます。

ご存知の通り、南三陸町の観光シーズンは6月以降に大きな山があります。今年も天候に恵まれたこともあり、6月以降も昨年よりプラスの客数になっています。ただし、集客の中心となっている両地区の商店街の客数については一定程度の落ち着きを

南三陸町総合戦略推進会議

みせている状況と思われ、最終的な入込客数としてはほぼ目標値（120万人）程度になると予想する。昨年は商店街オープンの年だったため、商店街の集客が昨年同等となる見込みは厳しいものと思われます。

委員： 教育旅行受入数についても同じ期間のデータか？

観光推進係： 教育旅行については4月から11月のデータになります。

委員： ということは教育旅行客数は落ちている？

観光推進係： 現在、南三陸の教育旅行の一番のコンテンツが民泊の受入になっておりますが、今年度については高齢化の影響もあり、受け入れ先が減少傾向となっていること。また震災学習というコンテンツも減少傾向にあることが、客数が落ちている理由のひとつと思われる。

委員： 民泊についての課題は昨年の末からあったと思うが。

観光推進係： 民泊についてはここ数年、受け入れ先の拡大を目指してはきたが、なかなか難しい現状です。

委員： 移住者に奨励金を交付とあるが、どういった制度か？

商工業立地推進係： 定住の促進を図ることを目的に、企業がUターン者、またはIターン者を雇った場合に、企業に対して助成を行う制度であります。

委員： 年間での予算枠はあるのか？

商工業立地推進係： 予算枠はあります。

委員： 1人雇用につきいくらの枠があるのか？

商工業立地推進係： 1人あたり30万円の枠で、雇用してから6ヶ月経過して申請となります。

委員： これから外国人労働者が増えてくると予想されるが、そういった人達も対象となるのか？
そういった人達は移住者扱いとなるのでしょうか？

商工業立地推進係： 移住を目的とされる方であれば対象となりうるが、3年や5年といった短期間で帰られる方は対象外となります。

南三陸町総合戦略推進会議

委員： 外国人労働者が移住を希望している場合と希望していない場合はわからないと思うが、その場合はどうするのか？

商工業立地推進係： 制度として、外国人を想定して作られていない。

委員： これから町内企業PR動画を作っていくとのことですが、具体的にどういった内容のものか？

商工業立地推進係： 現在商工会で実施しているものを今後町としても協力していく予定です。

委員： 動画の活用方法が悩みどころだと思う。産業フェアなどで流すとハローワークのからみがあって雇用に繋がるような活動はやめて下さいといわれる。今年はせっかく作った動画を様々な場所で目に触れるところがあればよいと思う。

商工業立地推進係： その話は我々も気にしてしまして、ハローワークに確認したところ、問題ないとの回答をいただいております。

委員： 動画を流すのは良いが、その動画のなかに求人があるものはだめだと聞いたが。

商工業立地推進係： その部分も確認させていただいたが、企業の必要な情報等を盛り込んでいればチラシを出しても良いとの回答をいただきました。

委員： これから先、町内だけではなく移住促進のために町外にも南三陸町の企業を紹介していただくとうれしいと思います。

委員： イベント等で動画を流す他に、たとえば南三陸町のホームページに載せていくといった予定はあるのか？

商工業立地推進係： 商工会のホームページには載せております。当然町のホームページと商工会のホームページはリンクしております。

委員： 今の話に関連しているが、現在、家の長男が専門学校生ですが、本人の意思として、最終的には地元に戻って就職したい意向で、親としても地元で働いてほしいという気持ちもある。その中で、どうやって町内の仕事を探すか？といった課題があると思う。

先ほどの話のように、町や、商工会、観光協会等のホームページで色々な人の目に留まる場所に職業の情報があるとよい。

南三陸町総合戦略推進会議

委員： 無料職業紹介の充実の部分で確認したい。今後の予定として高齢者のあっせん促進等とあるが、これは新たに何か窓口を設けるとか、あるいは企業からあっせんして欲しいといった話があるのか？

商工業立地推進係： 今のところ企業からは60歳以上を雇用したいといった要望はない。ただ、町としても高齢者の雇用を促進しましょうといった方向でやっている。まずは地道にPRしていきたい。高齢者で働きたい方がいても、企業側で雇えないといったミスマッチも起きないように、企業側と求職者のマッチングをできるように対応していきたい。

委員： 震災前にあったシルバー人材センターを開設ではなく、まったく別な動きになるのか？

商工業立地推進係： はい。別のものです。今は労働力不足を打開していかなければならないので、高齢者に関しては以前のシルバー人材の考え方ではなく、企業側からの雇用という面で推進していく。

委員： 新卒者を対象とした奨励金の関係でお聞きしたい。雇用後6ヶ月以内に離職した人数は把握しているのか？

商工業立地推進係： それについてはつい先日調査いたしました。平成27年度から平成29年度に対象となった企業に調査を行い、交付金受領後にその職場に定着したかどうか確認しましたが、15人中、10人が定着し、5人が離職し、定着率は約66%という結果でした。

委員： 離職の理由は？

商工業立地推進係： 主に自己都合といった理由が多く、その中では専門学校に行く等の理由がありました。

委員： ちなみに、企業はこの制度を積極的に活用して雇用に繋げようとしているか？

委員： この制度は移住者に対して交付した方が効果的では？

委員： この制度についてはKPIとの直接的な関連性がみえない。

会長： 以前も確か同じ議論になったと思う。新卒者に対して交付したほうがよいという話があり制度設計を変えたほうがよいといった議論があったように思う。現在もこの制度は変わっていない？

南三陸町総合戦略推進会議

事務局： 確かに以前の会議でもそういった話になり、商工観光課の課長の方にはその旨を伝え、制度の見直しもあるので検討するという回答をいただいております。

会長： 前回と今回の会議でも話に挙がるということは、制度の見直しを検討しなければならない事業だと思う。

商工業立地推進係： 就業定着率も考慮し、この制度が本当に役に立っているのかを検討し、雇用対策に有効なのかどうかを改めて課内で詰めていきたい。

会長： 他にあるか。

委員： 漁業の就業について。養殖をしてみたいといった声を聞くことがある。移住してからの長期的な視点で考えると、漁業権が必要になると思うが、資料にある来年度1名漁業町内生産会社へ就労有りとは具体的には？

水産業振興係： その1名の方に関しては、来年度からの本格的な移住をするために、現在南三陸オイスターで研修を行っております。漁業権については漁業とも話しをしているが、昔からの考えが今も残っており、新しい方が漁業権を取るのなかなか難しい。

会長： 漁業権については明確な回答ができず申し訳ないが、今までもずっと続けてきた課題であり、なかなか難しい。

水産業振興係： ちなみに就労する方は福島の方です。他に3名が長期研修にきております。

会長： 他には。

委員： また雇用の話に戻ってもうしわけないが、移住者を雇用した企業に対して奨励金を交付しているが、交付実績が平成28年から7件、4件、2件と年々落ちてきている。おそらく南三陸に移住したくて求職している人がだんだんと減ってきているのかなと思っていて、私もいりやどで移住者で誰かいないかと思って、求人を出していたが、町内に求人を出しても意味はなかった。やはり、大手のウェブメディアを使用する等、広範囲へ周知しなければならないが、その為にはお金がかかる。年々実績が減ってきているという現状があるならば、求人募集の方法、やり方に補助を出すといった考えも今後必要となってくるのではないかな。

会長： ひとつのよい提案だと思う。他には。

委員： 1次産業の就業支援のうち林業分野については？

農林業振興係： 来年、または再来年に新しい森林管理システムを使って、活用できる山林を増やす政策を進めていく予定です。その際には明らかにマンパワー不足が予想されます。すぐに効果はでなくても林業分野に力を入れていく方向を考えていかなければいけないと思っています。

会長： 他には。たとえばK P Iの数値に関して何か気づいた事等ありますか。時間配分の都合もあるので、もしなければ基本目標2，3に移りたいと思うがよろしいか。それでは基本目標2に進みます。これにつきましても今から3分程度の時間で資料に目を通していただきたいと思います。(一同資料確認)

会長： それでは基本目標2についてご意見をいただきたい。何かありますか。

委員： 2つ質問があります。1つ目は移住相談者の年齢層の傾向はどうか？2つ目はお試し移住事業については具体的にどこまで制度化されているのか伺いたい。

地方創生係： 1つ目の質問については今年度は首都圏で5回のイベントを行い、そのなかで相談者は105名おりました。5回行ったイベントのうち、1回目は平均年齢30歳。2回目は平均年齢45歳、3回目は平均年齢38歳、4回目は平均年齢40歳、5回目は平均年齢38歳というような結果でした。ツアーについては4名の参加者があり、平均年齢45歳になりまして、比較的相談者は30歳台の方が多い。2つ目の質問につきましてはこの事業は町として行う事業ではなく、民間のいりやど研修センターの花見山ハウスをお試し移住で利用しており、そちらに紹介をするかたちになっております。もうひとつは、田尻畑や城場に民間の住宅を借りて、シェアハウスのような形でお試し移住を行っている団体がございます。

昨年度はその団体で10名以上の参加者がありました。今年度に関しては団体に照会しましたが、まだ集計ができていない状況です。

会長： 他には。

委員： 空き家バンクに現在登録されている件数は増えていますか？

地方創生係： 現在は1件です。

委員： これは空き家活用数ですか？

地方創生係： 登録できた件数が1件です。

委員： その他に交渉中の空き家はあるのですか？

地方創生係： 昨年度から始めておりますが、昨年度で6件、今年度は4件と相談はきておりますが、改修が必要であったり、登記の問題等で条件が整わない場合が多く、登録に至らないケースがある。

委員： 空き家自体はあるということか？

地方創生係： ありますが、すぐに使える空き家はないという状況です。

委員： 空き家バンクの登録条件として、改修すれば登録できるといった登録までのハードルを下げるといった方法はありますか？

地方創生係： その部分についてはハードルを下げておまして、改修補助金という制度もあります。大家さんが一方的に改修するだけではなく、現状の家のまま登録し、空き家の利用者が補助金制度を活用し、改修する場合もあるが、現状は10万、20万で修理できるような空き家がない。

委員： 空き家を探しているという相談はどれくらいあるか。

地方創生係： 現在、利用したい方の登録件数は0件です。

委員： おそらく、登録されている空き家が少ないため、最初から諦めている人もいると思う。

地方創生係： 利用者登録のアピールも行っているが、まだ公営住宅に入居希望の方も多い。

委員： 1軒家を希望される方はいると思う。土地ごと売却したい方も多いのか？

地方創生係： 所有者が町にいない方は土地ごと手放したいといった方が多い。

会長： 地元にいると、空き家は沢山あるように思えるが、実際に空き家を活用していくことは思った以上に労力がかかることで、思った以上にお金もかかる。だから成果としてなかなか表れない。

委員： 移住相談者は30代の方が多いというお話があったが、公営住宅を希望されている。それは空き家を見つけることが難しいから、すぐに入れるところを希望されているのか？そもそも空き家に住みたくないのか？その傾向はありますか？

地方創生係： ちょうど12月に移住センターには登録しているが、まだ移住していない方々に住まいの希望に対するアンケート調査を行いました。利用者側のニーズを探るため、空き家でも良いのか？家賃はどれぐらいか？等、現状の空き家とニーズとされる空き家の差を確認したいと感じておりましたので、年明けに取りまとめたいと思います。

委員： 30代の方はこういった移住目的をもっているか？

地方創生係： 様々な理由がありますが、一番は南三陸町の環境や人に魅力を感じる方が多い。今までに何度か訪れた方が移住を決め、町で何かできることはないかと仕事を決めるといったケースが圧倒的に多いように感じます。一方で60歳で退職したから海沿いの町に住みたいといった理由で沿岸部の中で南三陸町を選択される方もいる。

委員： 町外から南三陸町に就職される方は住まいを探さなければいけない。公営住宅等賃貸もある。新築とまではいかないが、一軒家に住みたい方はいると思うし、この先増えていくと思う。そういった方のためにも、空き家利用ができるとう良い。また、空き家をシェアして使うといった方法もある。いずれにしても空き家バンク登録件数を増やしていかなければならない。空き家登録の為の情報も待っていてもこないのではないか？

地方創生係： 今回、大正大学地域連携という活動の中で、地域を周り、移住関係のヒアリングをした際には色々と情報を得ることができ、空き家を紹介してもらえたりした。やはり、待っていてもだめで、地域の行政区長さんなど、地域を把握している方に声がけしてもらおうと、空き家所有者の方も動きやすいのではないかと感じる。

会長： 空き家になっているということは所有者本人はいないわけだが、それでもやはり、所有者本人にアタックしないといけない。

委員： 所有者は調べればわかると思うが、所有者が住んでいるところはわかりますかね？

会長： それについては、区長さんだったり、地域をわかる人は情報を持っていると思う。

委員： であれば、空き家制度の案内を工夫したりするべき。

会長： 町としてもそういった案内だったりはやっている。

委員： それは所有者に案内を送っている？

地方創生係： 今年も税務課と協力させてもらい、納税通知に空き家バンクのチラシを入れたとこ

ろ、県外の方からも反応があった。

委員： この補助金の上限はもちろんあるし、改修費用などは空き家によって差がある。中には新築したほうが早いような物件もあると思うが、そういった部分も含めてまずは登録してみて経費をかけてでもその家に住みたいという人がいるのであればマッチングは可能ではないかと思う。貸すまでの費用がネックなのであればその部分を解消してあげることはいかないか？

会長： 現実には、直接その空き家を見に行き、意向を聞いたりすると、登録しない人が多い。

委員： 気仙沼でも移住支援センターで住居を斡旋するといったことをやっていますが、いざ空き家を見せて話が進むと、やっぱり知らない人に貸すのは嫌だという人もいます。おそらく地域性も関係してくるものだと思う。

委員： 別な話題ですが、感謝絆プロジェクトのところで、南三陸応援団は目標をすでに超えています。今後は民間事業者が主体となった制度設計及び支援ということで、これはすごく意義のあることだが、これをやっても儲かるわけではないので、民間事業者がこの事業を引き継ぐことはしんどいのではないかと？

観光振興係： このプロジェクトは皆さんご存知の震災直後に立ち上がった災害ボランティアセンターの後を引き継ぐ形です。それを一気に全部収束するのではなく、段階的に立ち上がったもので、私達も最初は福祉分野のネットワークのところから、どうやって交流のほうに繋げていくかといった大きなチャレンジだったわけですが、少しでも南三陸のことを思っていた方々のネットワークのおかげで、この3,000という数字まで順調にきました。今お話にあったように民間事業者が主体となったことは、例えば3,000人の人達は町がやっているからとか、観光協会がやっているからといった理由で登録したわけではない。何かしら地域の方に顔が見える関係性があるから、南三陸に惹きつけられるし、また来たいといった思いがある。これまでおでってマッチングという取り組みで、産業復興、産業再生に関することに対して、それを仕事につくって南三陸を応援したい方とのマッチングをやってきました。このお世話役をこちらでずっとやっていくということは、災害ボランティアセンターの機能が移行していないことになる。これから先はお世話役が入ってノウハウや仕組みづくりを今後もお世話をしたい民間事業者伝えていく。現在希望されている事業者に対しては移行しております。

もうひとつは、言い換えれば南三陸のファンサークルでもあるので、ただ民間がやればいだけではなく、町としても太いパイプを繋いでくれる方々、そして企業の登録があるので、こちらについては予算の関係もありますが、情報発信をしたり、繋ぎとめる事務局の運営は引き続き必要なことだと思っています。

南三陸町総合戦略推進会議

委員： そのせっかくできた繋がりを維持していくのがたぶん大変だし、重要なことだろうと思います。

観光振興係： やっぱり継続ですね。その方たちの中には年々気持ちが薄れていく方もいらっしゃる。こちらからの仕掛けによっては良い方向に変えていけると思っています。

会長： 他にございますか。

委員： 地域おこし協力隊について。31年4月に任期満了となる2人の今後や、そこで培われたものに対してはどのように引き継がれていくのか？

観光振興係： 任期満了を迎える2名について、1名は新規就農を目指して準備を進めているところです。もう1名については、この3年の業務で培ったノウハウを活かして、地元企業への就職を目指しているところです。この2名につきましては今後も南三陸町に定住を予定しております。

委員： ということは、地域おこし協力隊で学んで得た経験だったり、ノウハウは町に残せるし、あるいは引き継いでいける体制を構築できている？

観光振興係： そうですね。地域おこし協力隊が入ってきたことがきっかけで、例えば今まで任意団体で行ってきた取り組みを法人化することができたり、そういった事例がある。

会長： 他にありますか？基本目標2についてはよろしいでしょうか？それでは少し休憩をとります。その間に基本目標3について資料を確認していただきたい。

～休憩～

会長： それでは再開いたします。基本目標3について議論いただきたいと思います。何かございますか？

委員： 婚活イベントでカップル成立数4組とあるが、町内の人か？

官民連携推進室： この4組については大崎市と共同で開催した婚活イベントのときに成立した件数になります。

会長： 今後の予定にもありますが、2月にまたイベントを行います。

委員： 2月のイベントに向けて呼びかけは始まっているのか？

南三陸町総合戦略推進会議

官民連携推進室： これからです。

委員： イベントに人を集めるための集客方法だったり、PRの仕方だったりについては何か考えていますか？

官民連携推進室： 今年度、町が関わった2件の婚活イベントで聞こえてきた参加者の声などを反映させた形で2月のイベントを行う予定です。

委員： どういった内容のイベントですか？

官民連携推進室： 大崎市との共同イベントでは、会場としてさんさん商店街を使った。その中で地元の人が多い場所だと参加しづらいといった声もあったので、町外での開催も視野に入れて計画していく予定です。

委員： 大崎市との共同イベントはどんな内容でしたか？

官民連携推進室： 事業概要資料を基に説明。

委員： 時間帯だと何時から何時まで？

官民連携推進室： 午前10時から午後4時ぐらいまでです。

会長： それでは他にありますか？

委員： 子育てクーポン券の配布とありますが、もらわれた方はみなさん使用されているのか？クーポン期限も半年間の期限があったと思うが。

子育て支援係： 子育て支援応援券という名目になっていて、みなさんまじめなので子供の物だけを買う方もいる。町内の商店街で10万円分を買うのはなかなか大変。子育て世帯を応援するといった目的でやっていますので、クーポン券を使って買うことができる物は子供用品に限らず使えます。要は家庭の財布の中に10万円分の商品券を組み込んでもらうといった考え方で、受け取りに来る方にはその様に説明させてもらっています。また、半年間の期限は短いといった声も聞くが、期間についてはそれ以上は延ばせない。

委員： クーポンの使用については商店街連合会と連携しているから集計はされていると思うが。

子育て支援係： クーポンを何にどのくらい使われたか？までは把握できていない。

委員： 実施して2年目になるし、今後に活かすためにも、どれくらい配布して、どれくらい、何に使用されたかについては追跡調査をしてもよい時期にきていると思う。

子育て支援係： 子育て支援の事業につきましては、子育て支援事業計画の中で行っております。その事業計画の最終年が31年度です。これからですが、子育て支援のニーズ調査を早ければ来週あたりから保育所にて行う予定です。その後小学校は新学期に入ってから調査を進めていく予定です。そこで様々なニーズが出てくると思いますので、そのニーズを上手に取り入れた形で今後の事業を進めていく。

委員： 是非お願いしたい。そういった調査結果の報告があると、こういった議論もさらに活発になると思う。

委員： 私も子育てクーポンをいただいて、町内の飲食店で使用しました。実際にそういった飲食でも使用できることが周知できればよい。他に写真屋さんとかにも使えればよい。

委員： 聞いた話によると、クーポンは使いづらいといった話もきく。子供用品に限定すると町内では選択肢が少ないので、結局飲食店で使ったといった声がある。

会長： まさにその通りで、先ほど担当課より説明があったが、世帯を応援するためのもので、町内でお買い物をする際にはどんどん使ってもらいたい。その使い方のPRが必要だ。

子育て支援係： クーポンをお渡しする際には、面談をしながら説明を行っています。

商工観光課： 今お話にあったように、例えば商工会員さんを通じて、小さいお子さんがいるところに、自分の企業だったらこういったサービスができますよ、こういった商品がありますよと、町内の事業者さんからどんどん発信してもらおうことも良いと思う。

委員： 確かに、子供を連れていると、椅子が置いてあるかなとか、オムツを換えれる場所があるかなとかを気にして飲食店を選ぶようにしている。都内などは子供を歓迎とか子育てママ達歓迎とかをお店の前に貼ってあったりする。それはとても良いことだと思う。

観光協会のホームページでも飲食店が沢山並んであるページでタブの1つとして、座敷があるとか、子供用の座席があるとか、町外の人が見るものだからこそ、そういった細かい気遣いがあるとよい。

南三陸町総合戦略推進会議

会長： 貴重なご意見ありがとうございます。他にありますか。なければ基本目標3についてはよろしいですか。

委員： 放課後児童クラブについて。志津川地区、歌津地区とありますが、最低人数がどの程度か教えて欲しい。私は戸倉地区だが、長女をお願いしようか悩んでいて、前に戸倉地区で、人数が少ないからできませんと言われたことがあり、どの程度の人数であれば稼動するのか確認したい。

子育て支援係： 戸倉地区は毎年0人であった。今は入谷地区も支援センターはないが、入谷の方からニーズがあり、その場合、タクシーを使って志津川まで来てもらっていました。5人でも厳しい状況なので最低10人は必要。戸倉に関しては子育て支援センターがあるので、なんとか最低限の人数は集まってもらいたい。一日入学のタイミング等で説明はさせてもらっているが、家に祖父、祖母がいるから行かなくて良いという家庭が多い。家庭の中で補えている保育を無理にこちらでとはなかなか強く言えない。

委員： 今度小学校に上がる娘でどうしようか悩んでいる。自分は仕事もして、家には祖父、祖母はいない。だからといってタクシーを使ってまではと思ってしまう。

子育て支援係： ちなみに戸倉から志津川まで来るスクールバスはないのでしょうか。実は歌津の名足も同じ状況ですが、伊里前まで来てもらっている。名足は歌津中学校に来るスクールバスに乗せてもらい学童にきている。子育て支援の担当としてはニーズがあるならばタクシー利用も是非使っていただきたい。これから行うニーズ調査の結果を基に今後5年間のサービスの提供方法を定めていくことになるので、ぜひ様々な声を反映させていきたい。

委員： タクシーまで使ってやっていることがあまり伝わっていないのはもったいない。町としてはそのへんの周知、PRはされているんですよね？

子育て支援係： 入学等のタイミングでは必ず募集等の周知を行っています。

委員： タクシーまで使って学童に行ったという事例も併せて周知したらよいと思う。

子育て支援係： 周知についてはお母さん達のネットワークはすごい力がある。是非お母さん達にみんなで使おうと言ってもらえば広がっていくと思う。

委員： 志津川の児童クラブを検討してみる。

南三陸町総合戦略推進会議

会長： それでは最後、共通の取り組みについて意見をいただきたい。

委員： おらほの町づくり補助金について、平成30年度は5件となっているが、どのような内容か。また、提案が9件で採択が5件ということで、採択されなかった4件はどういった理由だったか。

企画情報係： 地域資源を活用して、町を盛り上げるための事業に投資するという趣旨になっておりますので、町民の関わりが少ない内容の事業については採択しませんでした。採択された5件のうち1件は最初不採択であったが、企画を見直ししてもらいその後採用といったケースもありました。

委員： どんなイベントでしたか？

委員： 子供たちが、町の資源をトレーディングカードとして集めるというイベントで、今っぽいのが子供たちにも伝わりやすかった。もともとある化石の体験ツアーに絡めたイベントで喜んでもらえた。また、子供ラムサールに絡め、渡り鳥のカードを作った。

委員： 他の4件は？

委員： 婚活事業にあった。芋煮deきっかけもあった。

会長： ちなみに私は審査委員長になっているので、不採択事業の理由を説明させていただく。ある伝統芸能のお祭りを復活させたいという事業もあったが、その予算をみると物品の購入代が8割を占めていた。目的が違うのではということで不採択となったものが1件あった。

委員： この補助事業は来年も続けるのか？

会長： 来年も続けます。他にございませんか？

委員： 官民連携推進の今後の予定について、今のところ、町としてイメージしていることはありますか？それともこのような場で協議したほうがよいのか？

地方創生官民連携推進室： 企業、教育機関、NPO法人等の民間団体から相談を受け、民間活動のサポートやマッチングを実施してきたなかで、それぞれの団体が活動費を集めることに苦勞されている。事業を行いたいが、31年度復興予算終了の段階でこの活動がどうなるかわからない。32年度以降どうやっていくか課題です。

南三陸町総合戦略推進会議

委員： 町としてはどうしていく予定ですか。

会長： 具体的な制度設計をしていかなければならないと思う。町がお金を出してやっていくとなればそういった制度にしなければならぬが時間もかかる。

委員： 官民連携の推進について。具体的にどういった事業か？

地方創生官民連携推進室： 昨年度、まちどまでF S CのPRと写真展を行ったり、入谷で活動しているウィメンズアイから里、山の魅力を伝えたいという相談があった。その際に農林水産課の里山協議会と移住センターの情報発信や交流の部分をマッチングさせて、ひころの里を会場として、映画祭と交流会を一緒に開催しました。

会長： 他には何かありますか？

委員： もどってしまいますが、婚活事業について聞きます。カップル成立4件ということで、実績が出たことはすばらしいと思いますが、予算の使い道が気になる。交流人口拡大や移住促進の副産物でもできるものだと思っていて、例えばこの事業を今後も行なっていくとして、今の外部団体への委託というかたちではなく、移住支援センターでやってみるとか、観光協会などでやってみるなどそのような考えは現状もっていますか？

地方創生官民連携推進室： 今後の婚活事業についてはそういった方法も必要なことだと認識しております。

会長： 婚活については前回の会議でも色々なお話があった。町として行くと誰も参加しないので、まず1回目は専門の業者に任せてみようということにしました。この町で1番の問題となっている高齢化。結婚しないまま高齢化を迎えてしまう方がどんどん増えてしまう。その問題を解消しましょうということで、まずはやってみないとわからないので、1回目は専門の業者に任せましたが、これから良い方法を探っていくしかない。

委員： ぜひノウハウを蓄積して行ってほしいです。婚活事業を婚活として行う必要はなく、大崎から人がくるのであれば、大崎に向けた交流促進をすればよいと思っています。

委員： 今年の予算はどれくらいとっているのか？

地方創生官民連携推進室： 今年は120万です。

委員： この事業も見直して再評価するのですが、婚活の部分はちょっと目線を変えて、潜在

南三陸町総合戦略推進会議

ニーズを調査することから始めないといけないかなと思います。婚活事業のコンセプトも必要性も理解しているが、町としてお金をかけてまでやる必要があるのかどうか、効果が出ないものをやり続ける必要があるのかどうか検討が必要だと思う。

会長： 基本目標の中にもある、人口減少対策の為にやってみようということで始めた事業だ。

会長： とりあえず基本目標1から3、各基本目標に共通する取り組みについてはご意見を頂戴いたしました。頂いたご意見については持ち帰り、今後検討させていただきます。平成30年度の総合戦略推進会議は今回で終了です。31年度が総合戦略の最終年となりますので、なるべく早いうちに30年度の実績報告を行いたいと思っています。それでは(2)のその他ということで、事務局お願いします。

事務局： 今、会長からお話がありましたが、来年度は31年度の総合戦略、KPIの検証を行いたいと思っています。通常ですと30年度の実績報告が6月か7月にあり、11月か12月に本日のような31年度の間接報告という流れになりますが、31年度の予定としてはそれにプラスしてこれまでの総合的な実績確認ということで、年度内にもう一度行います。また、32年度以降の総合戦略の計画を進めていきたいと思っていますので、回数が多くなりますが、委員の皆様のご協力をお願いいたします。

併せて、委員の皆様の委嘱の関係でございます。29年7月に委嘱させていただきました。任期は2年となっております。31年7月で任期は切れてしまいます。改めて確認をさせていただきますが、委員の皆様には今後も継続いただきますようよろしくお願いいたします。

会長： 他に委員さんから何かありますか？

(株)エスカよりインターンシップ事業について説明

会長： では、本日の会議を閉会する。

～閉会～